

喇叭管溢血ト誤ラレントシタル輸卵管妊娠ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30833

喇叭管溢血ト誤ラレントシタル輸卵管妊娠ニ就イテ

金澤醫科大學產科婦人科教室(主任久慈博士)

小山 正直

一、緒 言

一九一九年喇叭管溢血ナル一疾患ガ吾ガ大石博士ニヨリテ唱道セラレ臨床上將又組織學上ニ特有ナル所見ノアルコトヲ明カニセラレタリシガ、爾後數回ノ報告ニヨリテ益々其ノ存在ヲ確實ニセラレタルハ本邦醫學界ノ爲ニ痛快事ト言ハザル可カラズ。然レドモ該疾患ノ確診ニ當リテハ實際ニ於テ亦易々タルモノニ非ズ。殊ニ喇叭管妊娠ニヨリテ起レル出血トノ間ニハ、慎重ナル檢索ニヨリテ嚴正ナル區別ヲナス可キコト論ヲ俟タズ。殊ニ出血ヲ起セル該喇叭管ノ組織的檢索ニシテ充分ナラザルトキハ容易ニ兩者ノ間ニ誤診ヲ來シ易キ可能性アリ。最近本教室ニ於テ兩側附屬器炎及ビ子宮內膜炎ナル診斷ノモトニ入院セシメ開腹手術ヲ施セル一例ノ如キハ、其ノ實例ニシテ手術後血腫ヲ作レル輸卵管ノ一部分ヲ檢鏡セルニ全ク子宮外妊娠ノ所見ヲ缺キシヲ以テ一時大石氏ノ所謂輸卵管溢血ナルベシト思惟シタリシモ、尙慎重ニ該喇叭管ノ全長ニ亙リテ詳細ナル檢索ヲ重ネタル結果意外ニモ其ノ一少部分ニ於テ變性ニ陥リタル胎盤組織ノ殘片ヲ發見シ得タルニヨリ其ノ病症ノ輸卵管妊娠ニ基ケルモノナルコトヲ知り得タルモノナリ。此ノ如キ誤診ハ少シク慎重ナル組織學的檢査ヲ行フニ於テハ斷ジテ之ヲ避ケ得ベシト思考スルモ本例ノ如キハ、喇叭管出血ニ對シテ輸卵管溢血ナル名稱ヲ附スニ當リテ慎重ナル檢索ヲ要スルコトヲ示スモノナリト信ズルヲ以テ、其ノ經過ヲ述ブルモ亦無益ノ勞ニ非ザル可シト信ズ。

二、實 驗 例

イ、既往症。

野○志○、二十九歳ノ農婦。血族ニハ特別ナル遺傳的關係ヲ認メズ。夫ハ健ニシテ花柳病ヲ否定セリ。患者ハ生來健ニシテ、初經十七歳ニ來潮シ、其ノ後毎月順調ニ持續三―四日、稍少量ナレドモ腰痛及ビ上腿ニ不快感アリト云フ。十八歳ニシテ結婚シタルドモ妊娠シタルコトナシ、最終月經ハ大正十三年一月十五日ヨリ十七日ニ亘リシト云フ、然ルニ一月二十六日ヨリ再ビ少量ノ子宮出血ヲ來シ三月二十七日ニ至ルマデ出血停止セズ、且ツ腰痛、下腹痛等アルニヨリ本教室ニ診ヲ乞ヘリ。

ロ、現在症。

全身狀態。體格榮養共ニ中等。皮膚乾燥シ眼球結膜等ニ貧血ヲ認メズ。頭痛眩暈並ニ輕度ノ嘔氣ヲ訴フ。舌ハ僅ニ褐色ノ舌苔ヲ附着シ、食慾普通ナリ。

胸部ニテハ右背下部ニ於ケル肺臟呼吸音ハ微弱ナル外著變ナク、心臟亦普通ナリ。

乳房ノ着色不明瞭ニシテ第四肋間ニ起座シ、指壓ニヨリテ初乳ノ分泌ヲ認メズ。

腹部ハ幾分軟弱ニシテ觸診時ニ胃部及ビ下腹部ニ壓痛ヲ訴フ。胃下界ハ臍上部三橫指ノトコロニ存在シ著變ナシ。脈搏八十至、緊張力佳良ニシテ亦正整ナリ。

内診所見。

大小陰唇軟弱、腔口粘膜幾分外翻セリ。腔粘膜ノ色淡赤色ニシテ僅ニ鬆軟ナリキ。子宮腔部ハ圓形ニシテ普通大。表面表皮ノ剝脫ヲ認メ粘液性褐色ノ腔分泌物ヲ多量ニ附着セリ。

子宮ハ輕度ノ後傾後屈ヲ示シ、普通大ニシテ可動性普通硬度亦軟ナリ。右附屬器ハ鶏卵大ニ腫脹シ頗ル硬ク指壓ニ

ヨリテ過敏ナリ。左附屬器ニ於テハ別狀ナキモ稍壓痛ヲ訴フ。子宮周圍腹膜ハ中等度ニ壓痛ヲ認メタリ。

尙リシツェンマイヤー、フエーラウス、ステファンモラー氏等ノ說ニ從ヒテ赤血球沈降反應ヲ試ミ同時ニ食鹽水

ニヨル Hemolysse ヲ試ミタルニ、赤血球沈降速度ハ五十分後ニ一・〇糖下降シ、〇四〇%ノ食鹽水ニヨリテ溶不溶ノ境界ヲ示セリ。而シテ溶血現象ニ就キテハ後日詳細ニ論ズル機會アル可キヲ以テ、之ヲ略シ只赤血球沈降速度ニ就キテ思考スルニ本例ニ於テハ赤血球沈降ノ速度ニヨリテハ前記數氏ノ主張スルガ如ク子宮外妊娠ナリヤ、附屬器炎ナリヤ、將又他ノ疾患ナルヤヲ鑑別スル事ヲ得ザリキ。

入院三月二十七日。以上ノ所見ニヨリ右側附屬器炎ト診斷シ喇叭管妊娠疑似トシテ入院セシメ、入院後隔日テレビン油ヲ臀筋内ニ注射スルコト五回ニ及ビタレドモ附屬器ノ所見ニ大ナル變化ナク患者ノ自覺症モ輕快セズ、子宮出血依然トシテ少量ニ持續セルヲ以テ手術ヲ決行セリ。

手術。大正十三年四月十二日久慈博士執刀。

麻酔ハ「バントボシ、スコポラミン」ノ皮下注射及鹽酸トロバコカイン」ノ腰髓麻酔ニヨリ、腹壁消毒ハ「ヨードベンチン」「ヨード丁幾」「アルコール」清拭ヲ用ヒタリ。

腹腔内所見。

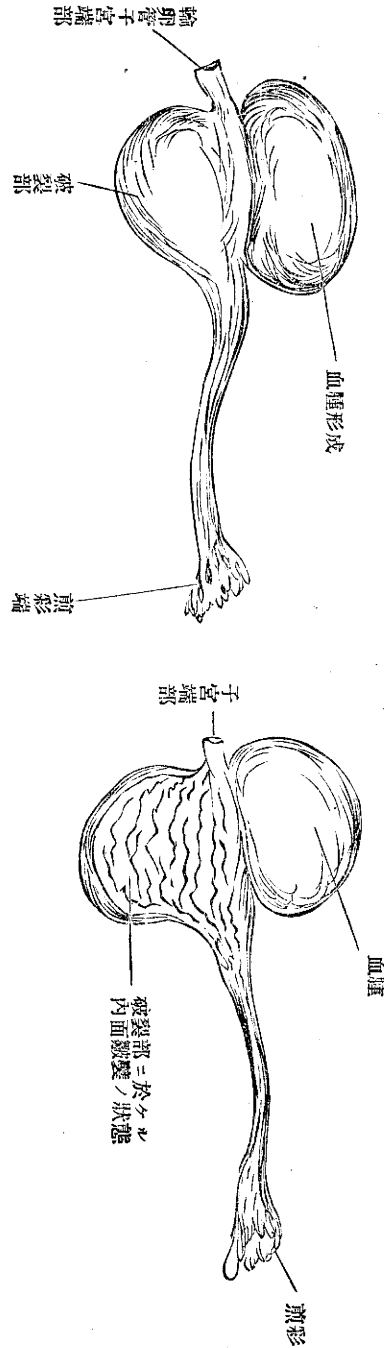
腹腔内ニハ凝血ヲ伴ヒタル凡ソ百瓦ノ暗赤色流動性血液ヲ認メ、之ヲ悉ク排除セルニ子宮體部及ビ兩側附屬器ハ相互ニ相癒着シ且ツ骨盤後壁ニ對シテ幾分纖維性癒着ヲ營ミ右側喇叭管ハ拇指大ニ腫脹シ、輸卵管狹部ニ鳩卵大ノ褐色血塊ヲ附屬セリ。煎彩ハ著變ナク開口セリ。同側卵巢普通ナリ。

左側輸卵管ハ幾分彎曲シ、其ノ周圍ニ癒着アレドモ著變ナシ。同側卵巢ニ於テ、胡桃大ノ囊腫性ニ變性セル黃體存在シ廣韌帶ノ後壁ニ癒着セリ。依テ上記纖維性癒着ヲ剝離シ、右輸卵管切除術ヲ行ヒ、バルデー氏ノ腹腔内韌帶短縮術ヲ施シ、創面ヲ腹膜ニテ掩ヒ、「エーテル」清拭後腹壁ヲ四層ニ縫合シテ手術ヲ終レリ。手術時間ハ三十分、術後ノ

經過ハ頗ル良好ニシテ四月一日第一期癒合ヲ營ミ全治退院セリ。

ハ、摘出シタル輸卵管ノ肉眼の所見。

右側喇叭管ハ長サ五種ニシテ狹部ノ一端ヨリ發生セル血腫ハ長徑三・〇浬、幅三・五種ヲ有シ少シク軟カニ觸レタリ。癰狀部ニ於テハ血腫ヲ作ラズ、輸卵管子宮端部及ビ煎彩部ハ普通大ニシテ著變ナシ。



ニ、同上ノ顯微鏡的檢索所見。

初メ四%ノ「フオルマリン」固定ヲ施シタル輸卵管ノ血腫ヲ形成セル部分ヲ取り一部ハ「バラフィン」包埋法ヲ施シ、一部ハ雪狀炭酸水結法ニヨリテ切片ヲ製作シ「ヘマトキシリン、エオジン」染色法、ワングーソン氏染色法、「ズダンIII」、脂肪染色法、ビルシヨースキー氏鍍銀法ヲ行ヒテ檢シタルニ輸卵管上皮細胞並ニ間質細胞ノ増殖ヲ認め其ノ部ノ血管ノ充滿及ビ組織間ニ小出血ヲ認ムル外ニ、脱落膜細胞、脈絡膜細胞ヲ缺キ著明ナル炎症モ妊娠徵候ヲモ認ムル事ヲ得ザリシヲ以テ輸卵管溢血ノ疑ヲ生ジタルヲ以テ更ニ精細ナル檢索ノ必要ヲ感ジ輸卵管ノ各部ヲ數個ニ分割シ「バラフィン」包埋法ニヨリテ連續切片ヲ作り前記ノ染色法ニヨリ精細ニ檢索セリ。

ル 喇叭管狹部殊ニ血腫ヲ形成シタル部。

輸卵管粘膜皺襞ニ於テ上皮細胞及ビ間質細胞共ニ増殖シ間質内血管ノ充滿ナリ、出血モ見ズ。白血球ハ僅ニ所々ニ散在性ニ存スレドモ圓形細胞ノ浸潤ナシ。然ルニ連續切片中ノ數個ノモノニ於テ血腫ヲ作レル側ノ粘膜上皮、換言スレバ破裂部位ノ一部ニ於テ血球ニヨリテ浸潤セラレタル、粘膜皺襞ノ變性ニ陥リタル部ニ僅カナガラモ、細胞相互間ノ境界不明ニシテ核染色不潔ナル脱落膜細胞存在シ、其ノ部ノ組織ハ一般ニ粗鬚ナリ。

粘膜下組織ハ一體ニ鬚疎度著シク筋層ニ於テハ血管強ク擴張シ、血球ヲ滿シ血球ノ漏出セルモアリ。

「ズダンIII」脂肪染色ヲ施セルニ、粘膜上皮細胞ニ黃赤色ヲ呈スル微細脂肪滴ヲ認メ、粘膜下組織ノ大ナル結締組織胞ノアルモノハ細胞體内全體ニ鮮紅色ノ小脂肪顆粒存シ其ノ部ノ筋纖維ノ間ニモ核ノ兩端ニ中等度ノ脂肪沈着ヲ認メタリ。

b 輸卵管子宮端部。

粘膜皺襞ノ増殖甚シク間質ノ結締組織ハ幾分増加シ、筋層血管ノ周圍ニ於テ圓形細胞ノ浸潤ヲ僅ニ認メタリ。各層ニ於ケル血管ハ擴張シテ血球ヲ滿セリ。

c 輸卵管煎彩端部及鼓腹部。

粘膜皺襞ノ基質ハ全ク血球ニテ滿サレ、所々僅ニ長形又ハ圓形核ヲ有スル細胞アリテ、皺襞ノアルモノニ於テハ其ノ尖端部ニ於テ組織崩壊シ一端ヨリ小血管ヨリ血球ノ漏出セル狀ヲ認メ得ベク、其ノ像實ニ喇叭管溢別ノ所見ニ似タリ。

三、考 按

喇叭管溢血ハ臨床上妊娠症狀ヲ缺キ發病前後子宮出血ヲ見ザルヲ特徴トシ、組織學的檢索ノ結果モ妊娠組織ヲ認メズ、輸卵ノ瀦溜性子宮ニモアラズ、炎症性病變モナクシテ溢血脈 Apoplexia boden 及ビ實質性溢腫 A trophisches Inter

stimuliæmation ヲ喇叭管壁ニ證明シ、直接又ハ間接ニ壁血管ニ病變ヲ發見スルモノナリト云フ。

然ルニ本例ニ於テハ、既往症ニ多少ノ出血ヲ訴フル外特別ナル妊娠症狀ヲ缺キ組織學的ニモ喇叭管ニ腫瘤及ビ炎症性症狀ヲ認メズシテ、粘膜皺襞ノ一部ヨリ宛然血管壁ニ變化アリタルガ如ク血球ノ漏出セル狀ヲ示シ手術ノ際ニ見ラレタル腹腔内多量ノ新鮮血液ト輸卵管狹部壁ノ鳩卵大ノ血腫ト相俟テテ其ノ所見大石博士ノ稱フル輸卵管溢血ニ酷似シ、且ツ最初ノ組織學的検査ニ於テ妊娠組織ヲ發見セザリシヲ以テ一時喇叭管溢血ノ疑ヲ生ジタリシモ精細ナル検索ノ結果其ノ極少部分ニ極メテ僅ニ脱落膜細胞及ビ脈絡膜細胞ノ共ニ變性ニ陥リタルモノヲ出血セル疎鬆ナル組織間ニ發見スルヲ得、之ニヨリテ確實ニ喇叭管妊娠中絶タルコトヲ證シ得タルモノニシテ、最初ノ努力ハ遂ニ報ヒラレタルモノナリ。

思フニ子宮妊娠中絶ノ場合ニ於テモ臨床上子宮出血ヲ伴ハザルコトアルハ周知ノ事實ニシテ且ツ其ノ中絶ノ比較的初期ノ時代ニ於テ起レルトキハ、喇叭管ニ於ケル妊娠性變化甚シク僅微ナルノミナラズ、容易ニ變性及ビ吸收ニヨリテ其ノ痕跡ヲモ認メ得ザルニ至ルコトアルベキヲ以テ、斯ノ如キ場合ニ於テハ可ナリ精細ナル組織學的検索ニヨリテモ其ノ出血ノ原因ヲ確定シ得ザルコトアル可キヲ以テ喇叭管溢血ナル診斷ハ慎重ナル検査ト考慮トヲ要ス可キモノト思考ス。

擲筆ニ臨ミ、終始懇篤ナル御指導ヲ賜ヒタル恩師久慈教授ニ謹ミテ感謝ス。

参 考 書 目

- ① 大石貞夫、喇叭管溢血症、ツーベンアポレンキシーニ及喇叭管溢血症、日本婦人科學會雜誌、第十四卷第4號。
- ② 大石貞夫、變角子宮ニ於ケル輸卵管溢血ニ就テ、日本婦人科學會雜誌、第十六卷第十號。
- ③ 瀨尾辰雄、喇叭管腹腔端小血腫ノ二例、北越醫學會雜誌、第三十三年第六號。
- ④ 大石貞夫、輸卵管溢血症追補、日本婦人科學會雜誌、第十五卷第五號。
- ⑤ 大石貞夫、一側喇叭管溢血ト他側喇叭管破裂トノ併發、日本婦人科學會雜誌、第十七卷第六號。